



「江戸のスポーツと 東京オリンピック」



CONTENTS

- 企画展 いきものがたり—江戸東京のくらしと動物—
- 2019年8月、江戸東京博物館の2つのホールが生まれ変わります
- 研究の散歩道 フランス人画家レガメー

特別展

「江戸のスポーツと東京オリンピック」

7月6日(土)～8月25日(日)
1階 特別展示室

いよいよ来年に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピック。当館では、開幕の1年前にあたる時期にあわせ、日本におけるスポーツとオリンピックの歴史をひもどく展覧会を開催いたします。

第1章 江戸の「スポーツ」事情

江戸時代には、近代の「スポーツ」とは少し異なる、伝統的な運動や競技が行われていました。もともと戦場で必要な技術であった剣術などの武芸は、太平の世が続いた江戸では武士の教養として学ばれるようになり、記録や勝敗の競い合いも行われました。一方、庶民に目を向けると、大相撲の興行が人気を集めたほか、寺社の境内や盛り場では弓

矢を用いた「楊弓」なども楽しまれました。また、かつて宮廷行事として親しまれた蹴鞠は江戸時代になると町人の間で愛好者が生まれ、鍛錬の成果を将軍が上覧することもありました。

本章では江戸の「スポーツ」事情を、絵画や実際の競技に使われた用具などから紹介します。

第2章 近代スポーツと東京

明治期に入ると、武芸や相撲などの伝統的なスポーツが、その



上野寛永寺で行われた流鏝馬を描く

流鏝馬 絵巻(部分)
狩野與信(春貞)/画 江戸後期 資料番号 94202494

在り方を大きく変える一方、西洋から様々な近代スポーツが紹介され、人々の関心を集めました。西欧化を進める国の後押しもあつて、スポーツは学校教育などに取り入れられて広まっていきま

す。

本章では近代スポーツの受容の道のりと、明治から大正期にかけて日本に普及し、楽しまれるようになった野球やテニスといった多様なスポーツの流行を紹介

第3章 オリンピックへの道

1912年(明治45)第5回ストックホルム大会で、日本はオリンピック初出場を果たします。



身長197cmともいわれる伝説の力士の羽織

雷電為右衛門の道中羽織
雷電為右衛門/所用 公益財団法人日本相撲協会 相撲博物館蔵

参加したマラソンの金栗四三と陸上短距離の三島弥彦はメダルにこそ届かなかつたものの、国際大会出場の道を切り開き、その後のスポーツ普及に大きな足跡を残しました。

以降、日本選手のオリンピック出場が続ぎ、テニスの熊谷一弥や柏尾誠一郎、陸上の織田幹雄や人見絹枝らのメダリストも生まれました。

そして、ついに1940年(昭和15)の東京オリンピック開催が



オリンピックにおける日本初の金メダル

織田幹雄金メダル(三段跳)
織田幹雄/所有 1928年(昭和3) 織田正雄・織田和雄蔵



男子マラソンメダリスト、円谷幸吉の使用シューズ

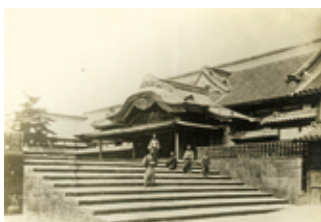
円谷幸吉マラソンシューズ
円谷幸吉/使用 1964年(昭和39) 株式会社アシックス蔵
※展示は左足のみ

次回特別展予告

特別展 「土 サムライー天下太平を支えた人びとー」
会期 2019年9月14日(土)~11月4日(月・休)

日本をイメージするキーワードとして、国内外を問わず多く用いられる「サムライ」。しかし、その言葉から何を連想するのは人によって様々です。武者・武士・侍・浪人など、サムライが表す人びとについて、歴史的な実態をふまえてこの言葉を使用しているとは言いがたいのではないのでしょうか。そこで本展では、現代のサムライイメージの原点である江戸時代のサムライ=「土」の暮らしや仕事のありさまをご覧いただき、サムライのイメージを見直してみたいと思います。

本展覧会では、いわゆる武士道書などに登場するような、抽象的なサムライの姿を紹介するには留まりません。総城下町として世界有数の大都市であった江戸の風景の中で、サムライがいかに活動していたのかを、絵画作品や古写真から浮き彫りにしていきます。また、有名無名を問わず、サムライの家に伝来した所用品の数々から、江戸時代の人びとが聞かされた親しんでいた生のサムライの生活をご覧いただけます。



当時、最大の武家人口を誇っていた都市江戸とその近郊に暮らしたサムライの姿をここに再現していきます。

新古今抄 温古写真集 霞ヶ関福岡藩黒田侯上屋敷表 玄関
明治初期 資料番号88005757

決まりますが、日中戦争の開戦と国際関係の悪化により中止となり、スポーツを行うこと自体も難しくなっています。

本章ではオリンピックで活躍した競技者たちの栄光と、1940年の東京オリンピック招致から返上に至る歴史を紹介します。

第4章 1964年東京オリンピック・パラリンピック

終戦後、日本はGHQによる間接統治下に入り、1948年(昭和23)開催のロンドンオリンピックへの参加が認められないなど、スポーツ界の苦難は続きます。しかし、そのような状況下で

事実上の世界記録を出した水泳の古橋廣之進らの活躍は、未だ復興途上にあつた日本人を大いに勇気づけました。

やがて日本は高度経済成長の時期へと移り、その成果を内外に示すべくオリンピックが再び招致され、1964年(昭和39)、ついに東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

本章ではスポーツ界における戦後復興のあゆみを示すとともに、その結実点となつた1964年東京オリンピック・パラリンピックについて資料や映像とともに振り返ります。

第5章 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて

2020年東京オリンピック・パラリンピック招致決定の瞬間は、私たちの記憶にも新しいところです。日本中が沸いた招致活動や、前回大会のリオデジャネイロオリンピック閉会式での引き継ぎセレモニーの様子、そして2020年東京オリンピック・パラリンピックで予定されている会場や競技などを紹介し、開催まで1年を切つた東京2020大会のこれまでのあゆみを写真や新聞記事とおしてご覧いただけます。

(学芸員 香沢博行、吉田奈緒子)

information

特別展

「江戸のスポーツと東京オリンピック」

開館時間: 9:30~17:30 (土曜日は19:30まで、7月19日・26日、8月2日・9日・16日・23日(各金曜日)は21:00まで) ※ 入館は閉館の30分前まで。

会場: 1階 特別展示室

休館日: 月曜日(ただし7月15日、8月12日は開館)、7月16日(火)

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券	特別展専用前売券
一般	1,000円(800円)	1,280円(1,020円)	800円
大学生・専門学校生	500円(400円)	780円(620円)	300円
中学生(都外)・高校生・65歳以上	500円(400円)	640円(510円)	300円
中学生(都内)・小学生以下	無料!		

※()内は20名以上の団体料金。

※次の場合は観覧料が無料。都内在住・在学中の中学生と小学生以下。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方、その付き添いの方(2名まで)。

※シルバーター(7月17日(水)、8月21日(水))は、65歳以上の方は特別展観覧料が無料です。年齢を証明できるものをご提示ください。

※前売券は4月27日(土)から7月5日(金)まで販売。7月6日(土)からは当日料金で販売。

〈チケット販売〉

江戸東京博物館、イープラス(特別展・常設展共通券の販売は江戸東京博物館のみ)

企画展

いきものがたり

江戸東京のくらしと動物

8月6日(火)～9月23日(月・祝)

休館日 8月19日(月)・26日(月)・9月2日(月)

*会期中に展示替があります。

常設展示室 5F企画展示室

都市に暮らす江戸東京の人びとに

とつて、いきものは切り離すことのできない大切な存在でした。時代や世相が移り変わるなか、様々ないきものが、人びとに可愛がられ、労働力となり、教育や娯楽の対象となりました。さらに、吉祥のしるしとして、様々な形で暮らしと関わってきました。

本展では、江戸東京の人びとといき

ものとの多様性に富む関わりを、館蔵資料を中心に4つの構成で紹介します。

第1章 愛されたいきもの

いきものを愛し、めぐることは、暮らしを和やかにすることに繋がりました。江戸時代には、庶民もいきものを可愛がるために飼育するようになりました。その飼いは、美しい姿や鳴き声の鑑賞、コミュニケーションを楽しむなど様々です。ここでは人びとに愛されたいきものを紹介します。

第2章 働きたいきもの

自動車のない時代の大都市・江戸で働いていたのは、人間ばかりではありません。牛や馬は、交通や物流になくはならない頼もしい働き手でした。年中行事や祭礼にも、いきものが活躍しています。ここでは絵画や文献資料をもとに、働きたいきものを展示します。

第3章 人気のいきもの

目新しいもの好きな江戸の人びとに、とつて、海を渡つて来た象や駱駝など珍しい動物は話題の種で、たびたび見世物興行されるほどの人気でした。明治時代には、競馬やサーカス、また動物園や水族館が開設され、現代に至るまで人気を集めています。ここでは人気になったいきものを紹介します。

第4章 いきものデザイン

暮らしのなかで使う道具や衣装、装飾品には吉祥の意味をもつ様々ないきものがデザインされ使われています。可愛く楽しいおもちゃには、動物は重要なモチーフです。ここではデザインされたいきものを展示します。

本展では、このほか体験ゾーンを設けました。浮世絵や図譜などに描かれたいきものの資料を体験しながら学ぶことができます。夏休みの時期、幅広い世代で楽しむことができる展覧会です。

(学芸員 西村直子)



とうきよじゅうにだい がつがし 東京十二題 こま形河岸
かわはた すいべい 川瀨巴水/画 1919年(大正8) 資料番号 93200309



セルロイド玩具
カサ付アヒルの乳母車
昭和時代 資料番号 91211143

企画展

発掘された 日本列島2019 新発見考古速報

開催場所

常設展示室 5F企画展示室

会期

6月1日(土)～7月21日(日)

休館日

6月3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)・7月1日(月)・8日(月)・16日(火)

展示内容

新発見考古速報展
特集1「福島の復旧・復興と埋蔵文化財」
特集2「記念物100年」
地域展「道灌がみた南武蔵」

主催：文化庁、東京都、東京都江戸東京博物館、東京新聞、全国新聞社事業協議会
協力：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会、共同通信社、公益財団法人元興寺文化財研究所
後援：全国史跡整備市町村協議会



2019年8月、江戸東京博物館の 2つのホールが生まれ変わります



江戸東京博物館は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、伝統文化の発信をさらに強化するとともに、一流の実演家が若手に芸を継承する機会を創り出していくことを目的に、2つのホールの改修工事を行いました。

伝統文化の公演のために、大ホール

では、舞台裏の通路や緞帳どんちようを整備し、座席をより快適なものに取り替え、音響設備なども新しくしました。

小ホールでは、新たに舞台を設置し、講演会などのメモを取りやすくするために、座席に可動式のテーブルを設置しました。

今後、当館は展示を観覧するだけでなく、日本舞踊や邦楽、落語など多くの伝統芸能公演を鑑賞できる多彩な魅力を持った博物館となることを

目指してまいります。

ホールの貸出にあたっては、「一般利用」と「伝統芸能、民俗芸能その他伝統的な文化に係る公演等」に分けて申請を受け付けております。ご利用に關しての詳しいご案内は当館ホームページをご確認ください。

大ホール

- 客席： 369席 ※車椅子スペース有
- 床面積： 601㎡
- 舞台： 間口12.7m(約7間)
奥行約6m(3.3間)
- 附属設備： 屏風・所作台・平台など

小ホール

- 客席： 135席 ※車椅子スペース有
- 床面積： 217㎡
- 舞台： 幅6.8m(約3.7間)
奥行約3m(約1.7間)
- 附属設備： 屏風・所作台・平台など



大ホール



小ホール 可動式のテーブル



小ホール



大ホール

フランス人画家レガメー

学芸員 長屋さくら・文

日本に強く心魅かれ、日仏交流に情熱を捧げた1人の画家を紹介したい。1844年8月7日、パリで生まれたフェリックス・レガメー Felix Régamey は、画家であつた父からデッサンの教育を受けて育ち、若くしてデッサン学校、建築専門学校で教鞭をとつた。

1876年(明治9)、かねてから日本に興味があつたレガメーはフランスの実業家エミール・ギメ Emile Guimet (現「フランス国立ギメ東洋美術館」創設者)に誘われ、挿絵画家として、アメリカ、日本、中国、インドを巡る宗教事情調査の旅に随行している(写真1)。およそ4週間にわたつた日本での滞在は、充実した旅となつたようだ。日本への興奮冷めやらぬレガメーはデッサンの他にも、小説『オコマ』や『実用の日本』など、日本に関する数々の出版物を世に出している。

1898年(明治31)11月15日、レガメーはフランスの教育大臣によつて日本における美術教育の調査にあたる視学官に任命され、翌年の1月から3月まで2度目の来日を果たした。

た。フランスに帰国後、調査の報告書を大臣に提出しているが、自身のアトリエからも同報告書を出版している。『東京の学校における図画とその教育』(写真2)と題した本書は、当館にも収蔵されており、総数60ページ、視察で訪れた13の教育機関それぞれの様子がまとめられている。各学校名については林久美子氏の研究※によつて既に確認されており、例えば

東京帝国大学や学習院男子部、東京美術学校などがある。

本書をみると、調査の目的は、西洋式美術教育の導入による日本美術への影響を調べることにあつたようだが、元来日本を愛しているレガメーは日本の毛筆に深い関心があり、全体を通して西洋から入つた鉛筆の使用やデッサンについては批判的なようだ。本書には挿絵としてレガメー自身のデッサンが多数掲載され、なかには日本の生徒が描いたデッサンも、美術教師としてのレガメーの見解とともに紹介されている。滞在中に出会つた日本

の芸術家たちとの交流についても記されており、本書は明治時代の美術教育を垣間見ることのできる貴重な手掛かりであるといえよう。

帰国後、パリ日仏協会の発起人の1人となり、後に協会の事務局長に就任したレガメーは、1907年(明治40)5月にその生涯を終えるまで協会のために働き続けたという。彼もまた当時のジャポニスムに大きな影響を与えた人物の1人といえよう。

※林久美子「フェリックス・レガメー第二回来日時(1899年)の足跡―日仏文化交流史の試み」『超域文化科学紀要』第12号2007、東京大学大学院総合文化研究科越域文化科学専攻発行



写真1
『狂斎(河鍋暁斎)が描いたレガメー』
国際日本文化研究センター蔵

帰国後に出版された旅行記『日本散策』(ギメ著、レガメー画)によって、レガメーと暁斎がそれぞれの肖像画を描きあつたことが記されている。



写真2
Félix Régamey著『Le dessin et son enseignement dans les écoles de Tokio』(『東京の学校における図画とその教育』)40頁
資料番号 94343433
東京美術学校での日本画制作の様子



図書室から お知らせ

「夏休み！子ども歴史学習相談」 図書室で夏休みの宿題のテーマを探してみよう

7階の図書室では今年も「夏休み！子ども歴史学習相談」を7月15日(月)・祝(9月1日(日))に実施します。

小学生・中学生向けの図書コーナーから、江戸城などのお城や徳川将軍家について、武士の生活や昔のくらし、歌舞伎や浮世絵、落語など、江戸東京の歴史・文化を中心に、役立つ本を集めてご紹介いたします。来年2020年夏に開催予定の「東京オリンピック・パラリンピック」関連図書コーナーや、以前開催してご好評いただいた「江戸時代の料理」関連図書、8月6日(火)から5階企画展示室で開催される「いきものがたりー江戸東京のくらしと動物ー」展関連図書コーナーも設置しますので、あわせて夏休みの宿題の参考にしてみたいかがでしょうか。

「調べるテーマがどうしても決められない」という方のために、「ヒントになる本もそろえています。ぜひお気軽に、図書室をご利用ください。」

■実施場所

7階図書室

■開室時間

9時30分～17時30分

■閲覧・複写請求受付時間

9時30分～11時30分

13時～16時30分

※図書室の利用は無料です(複写は有料)。
貸出は行っていません。

※質問者の代わりに調べる、解答することはできませんのでご了承ください。



夏休み！子ども歴史学習相談コーナー書架

キュレーターズ・ チョイス Vol. 4

江戸博コレクションから 「土浦亀城による 土浦亀城邸スケッチ」

当館では、戦前から戦後まで活躍した建築家・土浦亀城に関する資料を2500点以上収蔵しています。今回ご紹介する資料は、土浦亀城自身が、自分が設計した住宅を雑誌に発表するために、描いたスケッチです。

縦30×横22cmほどの大きさの紙に鉛筆で描かれ、当時の建築系の雑誌で自分の作品をどのように紹介しようかというレイアウトの検討をしたものと考えられます。

現在のようにメディアが発達していなかった時代、雑誌はとても重要な作品の発表の場でした。雑誌の記事を見て、ぜひこの建築家に設計を依頼してみたいと思わせなければなりません。

この「土浦亀城邸」は、1935年(昭和

10)に現在の品川区内に建てられました。傾斜のある敷地に合わせて設計され、道路面から階段を数段上がったところを玄関とし、ここを基準階とした2階建て地下1階の住宅になっています。

南側からの採光と換気を考慮した大きな窓や、暮らしやすさを優先して綿密に考えられた間取りは、土浦亀城と妻・信子の理想の住まいを実現したものです。この住宅は、品川区内に現存しています。

(学芸員 早川典子)



土浦亀城邸スケッチ 土浦亀城/画
1935年(昭和10)頃 資料番号 02003813



三井八郎右衛門邸(庭より)

三井八郎右衛門邸、 小出邸が都の指定文化財に

このたび、当園の「三井八郎右衛門邸」と「小出邸」の2棟が新たに東京都の有形文化財(建造物)に指定されました。

三井八郎右衛門邸は三井財閥で知られる三井総領家が、戦災で焼失した麻布今井町の本邸を再建するため、1952年(昭和27)に京都や大磯などの別邸の一部を利用し、建設された邸宅です。旧財閥家の本邸としての風格を留める、質の高い邸宅である点が高く評価されました。桂離宮の意匠を取り入れたと言われる書院の間や、龍の描かれた天井画など上質なしつらえをぜひご覧ください。

小出邸は茶室の研究と設計で知られる建築家・堀口捨己が設計し、1925年(大正14)に建築された木造2階建ての住宅です。著名な建築家が手掛けた初期の作品であり、日本のモダニズム建築の発展過程を示す実例として高い評価を受けました。小出邸は、ドイツ人建築家ブルーノ・タウトが日本の新しい建築として論文で取上げた作品でもあります。日本におけるモダニズム建築の萌芽をご鑑賞ください。こ来園をお待ちしております。

催し物のご案内

夏期ふれあい体験教室

- 講師:ふれあいボランティア ● いずれも参加無料(ただし常設展示室は観覧券が必要)
- 変更・中止の場合は当館ホームページでお知らせいたします。

事前応募制教室

開催場所:1階会議室【歴史散歩を除く】

● 江戸切り子体験教室

日時:8月2日(金) ①13:30~14:30 ②14:40~15:40
8月3日(土) ①10:30~11:30 ②13:00~14:00
対象:小学5年生以上 定員:各回10名
応募締切:7月19日(金)

● からくり玩具 はしこくだりを作ろう!

日時:8月4日(日) 13:30~15:30
対象:小学3~6年生 定員:親子12組24名
応募締切:7月19日(金)

● 歌舞伎の化粧をしてみよう

日時:8月17日(土) 13:30~15:30
対象:小学3年~中学生 定員:12名
応募締切:8月2日(金)

● 浮世絵摺り体験教室

日時:8月18日(日) 12:00~15:00
対象:小学5年生以上 定員:20名
応募締切:8月2日(金)

● 歴史散歩「江戸四宿:北の玄関口千住宿を歩く」

日時:9月29日(日) 13:00~16:00 *荒天時は10月6日(日)に順延
集合:13:00 集合場所:北千住駅西口交番前
対象:一般 定員:20名
応募締切:9月14日(土)



往復はがき(62円×2=124円)にて下記①~⑤を明記の上、ボランティア事務局までお申し込みください(締切日消印有効)
①希望講座名 ②住所 ③氏名(ふりがな/2名様まで) ④年齢 ⑤電話番号
〒130-0015 墨田区横綱1-4-1
江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係

方法
お申し込み

当日受付教室

開催場所:常設展示室5階ミュージアム・ラボ [9月28日(土)を除く]

● 藍のてるてる坊主を作ろう

日時:7月6日(土) 13:00~14:30(先着順)
対象:小学生以上 定員:60名

● 和算パズル

日時:7月13日(土)、9月14日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小学4年生以上

● 反古紙で折る小物 -江戸のエコロジーを見習おう-

日時:7月13日(土)、9月14日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小学生以上

● ときめきユカタ体験

日時:7月21日(日)、8月25日(日)
各日10:30~12:00(受付終了11:30)
対象:3歳以上 定員:各日30名程度

● 万華鏡で遊ぼう

日時:9月7日(土)
10:30~12:00(10:20より会場前で整理券配布)
対象:小学3年生以上 定員:15名

● 秋の建て染め体験

日時:9月28日(土) 12:30~14:00(先着順)
場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所 *荒天などによるひろば閉鎖時は中止
対象:小学生以上 定員:50名



ミュージアムトーク

- 常設展示室のみどころを学芸員が解説します。
- 日時:毎週金曜日16:00から
- 常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

市民文化と娯楽:7月5日・12日

文化都市江戸:7月19日・26日

空襲と都民:8月2日・16日

企画展「いきものがたり」:8月9日・23日

特集展示「浮世絵と芸能(仮)」:8月30日、9月6日

関東大震災:9月13日・20日

江戸城と町割り:9月27日

江戸東京博物館 NEWS vol.105

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2019年6月21日(金)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1

制作・印刷 株式会社D_CODE

表紙解説

おののがわたくしにかけ ひきわけ
「小野川 谷風 引分の図」 勝川春英/画
1791年(寛政3)頃
資料番号 94202665-94202667
第4代横綱の谷風と第5代横綱の小野川の対決を描いた図。
こがわのまほう
『戸外遊戯法』 坪井玄道、田中盛業/編
1885年(明治18)
資料番号 94203716
野球、サッカー、テニスなどの様々なスポーツを日本語で紹介した最初期の書籍。

